

(様式第8号)

事業報告書 (平成31年度)

事業名 たけべ中学生だっぴ

団体名 たけべ中学生だっぴ実行委員会 担当者名 入野 曜子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

「たけべ中学生だっぴ」

●日時…2019年12月11日(水) 13:00~15:00

●場所…建部町文化センター小ホール

●参加対象者・人数…

建部中学校2年生… 26名

おとな参加者 …… 14名

大学生 …… 6名

たけべ中学生だっぴ実行委員(キャスト)

… 7名

NPO法人だっぴスタッフ

… 3名

(計56名)



↑だっぴ当日の様子

●内容…

中学生・大人・大学生が一つの輪になり、様々なトークテーマでフリップトークを行った。それぞれが生きてきた時間や経験を持ち寄り、話をしていくことで、自分とは違う考え方やいろんな大人の生き方・働き方・価値観を知ることができることを目的とした。

トークテーマ

<グループ①>

テーマ1 今、ハマっていること(モノ・人・コト・何でもOK)

テーマ2 初対面のときに大事にしていること

テーマ3 あなたが思うおとな像を教えてください

<グループ②>

テーマ1 あなたが思う自分の長所は?

テーマ2 今だから言えるやっちゃった話

テーマ3 次の一步を選ぶとき大切にしたいこと



↑だっぴ当日の様子

(様式第8号)

「たけべ中学生だっぴ実行委員会」

7月9日(火) ミーティング①

- ・趣旨・進め方の確認と共有
- ・役割分担

8月26日(月) ミーティング②

- ・おとな参加者の声かけ、大学生参加者の募集開始

10月4日(金) ミーティング③

- ・おとな参加者・大学生参加者の確定

11月25日(月) ミーティング④

- ・中学生へ事前アンケート配布・回収

12月2日(月) だっぴキャスト研修

- ・研修
- ・トークテーマの検討



↑ミーティングの様子

12月11日(水) たけべ中学生だっぴ 本番

1月17日(金) ミーティング⑤

- ・ふりかえり
- ・報告書(まとめ冊子)作成について
- ・来年度にむけて、進め方

※その他、随時メールやSNSで情報交換・共有

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

●ESDの視点を取り入れたところ・見直したところ

「だっぴ」の手法自体が、全員参加型の体験活動である。今回は、特に実行委員会でのミーティングや、その中で物事を決めていくときの手法なども、NPO法人だっぴのスタッフの協力を得ながら、ESDの視点を取り入れ、当日までのプロセスを大切にしながら参加者全員で「作り上げていく」ことを意識して取り組んだ。

ふりかえりの中で中学校の2年生担任の先生からアイデアとして出された、「中学生もだっぴ実行委員会の一員として関わることが出来ないか」ということを、来年度は検討していきたいと考えている。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

●参加者の感想

<中学生・感想>

- ・ 大人の人達といっしょに話したりすることが初めてで、緊張したけど楽しかったです。
- ・ だっぴは、大人や友達が自分の気持ちを言える所だった。
- ・ いつも友達ぐらいしか、長く好きなことや話し合うことがなかったけど、大人と子ども（中学生）には、あまり境界線がないということがわかりました。
- ・ 自分の思っていることと相手が思っていることが違って、いろいろな事を知れてよかったです。
- ・ 大人とまともに話せて嬉しかった。

<中学生・心に残った言葉>

- ・ 「後悔はするもの！」
- ・ 「大人って、いうほど大人じゃない」
- ・ 「自分に自信を持っていいよ」 「それすごいね」
- ・ 「人生は全て学んでいる」
- ・ 「困難はあるけど、可能性もある」
- ・ 「『直感』って大切！」
- ・ 「何かをしないより、する方が得」

<大人感想>

- ・ 凝り固まった自分の考えを、中学生の子たちの考えでほぐされました。
- ・ 子ども達が非常にしっかりした考えを持っている事がよくわかりました。
- ・ 建部の生徒の皆さんは、素直で素朴な雰囲気を持ちつつ、外部の人を受け入れる姿勢を感じられて、その場にやすかった。
- ・ 地域の大人同士も対等につながる。
- ・ 大人・子どもという枠を超えて、色々な事が話し合え、すごく新鮮な気持ちになれた。
- ・ 今回の中学生はとても自分を発信するのが上手。
- ・ 今年の2年生は明るく前向きで、うんうんとうなずいてくれて、話をしていて楽しい学年でした。
- ・ だっぴを体験することで、人の話を聞くだけでなく、自分のことを話す機会を生徒の皆さんに体験してもらいたい。生きること、大人になることにわくわくしてもらいたい。
- ・ それぞれの考えを深められる。中学生にとってはもちろんだけど、大人にとってもいい経験になります。

●参加者の意識や行動の教育上の成果

感想からも読み取れるとおり、大人や大学生と対等な立場で話をすることで、様々な生き方や価値観を知るだけでなく、自分の思いを自由に話すことができ、それを否定することなく受け止めてくれる大人たちがいるという場を経験することで、自分を認め、他者との考え方の違いを楽しめるという心地よい体験をし、自己肯定感の向上にもつながったと考える。

「建部の中学生には、様々な大人とのかかわりの中で、今の自分自身や未来の自分、そして未来の建部について考え行動できる場を、継続的に持つ必要がある」という、実行委員会メンバーの思いのもと2018年4月からスタートしている「たけべ部」に、この「だっぴ」を経験した中学生たちを誘い、ふるさと建部の未来のために自分たちに出来ることを大人たちと一緒に考え活動していくことが、これをイベント的に終わらせず、本来の目的である、中学生の地域への愛着形成や地域の担い手の育成になり、地域全体の活力をつくることにもつながると考える。

また、参加した大人の感想からも肯定的な意見が多く見られた。中学生たちの考え方や姿勢を新鮮に感じたり感心したりという声だけでなく、大人である自分自身が新たな価値観を得たという、自己変革の感想も多い。地域づくりを進める際に、様々な世代の声を取り入れてということはよく聞かれるが、子どもたちの意見を「取り入れる」のではなく、大人と子どもたちが対等な立場で語り合え、参加ではなく参画できる場や雰囲気をつくっていけるかどうかは、そこにいる大人たちの考え方によるのではないだろうか。この「だっぴ」を体験した大人たちに、そのことを期待したいと考える。

4. 今後の課題と展望

●今後の課題と展望

2017年度に行った建部として初めての「だっぴ」は、岡山市教育委員会とNPO法人だっぴの市民協働事業として行い、2018年度は実行委員会が地域内外に寄付を募り実施した。

そして今年度は、前年に集まった寄付の繰越金と岡山市ESDプロジェクト活動支援助成金を活用しての実施となった。実行委員会としては、来年度も再来年度も継続的にこの「だっぴ」を開催することが建部地域の課題を解決していくためには必要と考えており、2020年度の資金集めも早々にスタート予定である。今後は各年度のはじめには「だっぴが確実に実施できる」体制を整えたいということから、助成金ばかりに頼るのではなくクラウドファンディングなど独自の資金調達の方法にも挑戦する予定である。

また、実行委員会では、NPO法人だっぴからプログラム企画運営のノウハウを教わり、建部町の方で継続して実施できる「建部町の中学生だっぴ」を目指している。私たちの最終目標は、「たけべ中学生だっぴ」を体験した子どもたちが成長し、それぞれの道を歩んだ先で、今度は多様な価値観を持つ大人の一人として「たけべ中学生だっぴ」に参加してくれることである。建部町の大人に愛され見守られて育った子どもたちが、その眼差しを引き継ぐ未来を目指す。

(様式第8号)

2020年1月には、岡山県公民館連合会の主催する「第3回 公民館講座アワード」において、「たけべ中学生だっぴ」から「たけべ部」につながる一連の活動を評価して頂き、グランプリを受賞した。後日、山陽新聞朝刊のコラム「滴一滴」で紹介されるなど、注目をさせていただく機会も増えた。しかし、建部地域の中での認知度はまだまだ高いとはいえず、周知が必要と考える。近所の人たちに知ってもらうことで、活動をしている中学生たちや大人たちの励みにもなっていくと考える。インターネットでの発信だけでなく、今回作成した報告集冊子の活用や、公民館だよりなどへの掲載、保護者への周知など、地域での地道な紹介活動も大切な活動のひとつとして取り組んでいきたい。

